

## 10月分 報告書 ブルゴーニュ大学

能瀬彩花

つい先日、9月分の報告書作成に焦っていたと思ったら、10月の報告書の締め切り日がすぐそこに迫っています。10月何をしていただろうと思い、毎日を記録しているはずの日記を見返すも、10月分はたったの5日分しか書かれておらず、全く毎日が記録されていませんでした。

思い返すと、寮を追い出されてからドタバタのバカンスが始まり、やっと家が確保されると、新しい冬のセメスターが始まり、課題をこなしているとあっという間に10月が過ぎたのだと気づきました。冬のセメスターは前回までの夏季講習に比べ、授業数や課題も増え、大変ですが、その分新しいことがどんどん身についているのを感じられ、学ぶのがとても楽しく感じられます。

今回は、日本とは全然違うフランスでの授業の様子や進め方と、今月あったちょっとびっくりしたことを書きたいと思います。

その前に、冬のセメスターが始まる前のバカンスで、フランスの家族（高校時代の留学で一緒に暮らしていたホストファミリー）に2年ぶりに会えたのがとてもうれしかったので、そのときの写真とおいしかったフランス料理を紹介します！



←パイ生地の器に仔牛、キノコ、ソースが入っている（というより、あふれている）  
ヴォロヴァンというフランス料理

←デザートのパイナップルのカルパッチョ

↑ちょっとのアルコールでびっくりするくらい真っ赤。この後、ショッピングを断念して私はゆっくり休まされることになりました。

12時頃に家を出たのに、帰ってきたのは17時頃。フランス人は本当におしゃべりで食事が長いです。

本題の授業の様子や進め方について話したいと思います。こちらで授業を受けていて感じることは、自分の考え方を深める機会や意見を言う場面がたくさんあるということです。日本で言語を勉強するときは、教科書に様々な場面の会話モデルがあり、その会話に出てく

る文法や表現を勉強するというやり方が一般的だと思います。こちらでも、会話のモデルを聞きとる練習などもありますが、その題材は実際の誰かのインタビューであったり、ラジオが多いです。そのため言語を学ぶと同時に社会問題に触れたり、実際の誰かの考え方を聞いたりすることができます。また、それについてどう思うか、それぞれの国ではどうなっているかについてみんなで話す機会があります。実際に社会で起こっていることが題材になっていることで、言語を学ぶというより、社会のことを学んでいるついでに言語が付いてきているという感覚になります。そうすると自分の言いたいことをいうために単語を覚えたり、表現を調べたりするため、早く身に着けることができます。授業では余談や寄り道がたくさんあり、日本の授業に比べると進みが遅いと感じますが、その余談に新しい表現や単語がたくさん詰まっています。

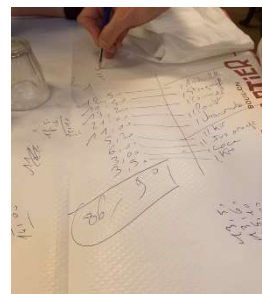
今回のセメスターの先生は今までの先生に比べ、エネルギーが圧倒的に先生で課題もたくさんあるので、フランス語をもっと伸ばせるように頑張っていきたいです。

最後に最近びっくりしたことを紹介します。



これはパリのレストランに行ったときの写真なのですが、テーブルの端に書かれているのは、店員さんの取ったオーダーです。メニューを取る時、伝票の代わりに机のテーブルクロスに直接注文したものが書かれました。私たちは、6人だったので、別々でのお会計ができるか頼むと、「bien sur！」(もちろんだよ！)と言って、私たちが各自の食べたものを聞き、テーブルクロスの上でひっ算を書き出しました。

なんとも大胆で原始的でした。



もう一つ見てもらいたいのは、この筆記体です。フランス人はだいたい筆記体で、繋がった字の人が多いです。今はだいぶ慣れてきたので読めますが、はじめは読めず、単語を調べることさえできずにいました。



移動遊園地にクラスの友達と行き、写真を撮る瞬間、ジェットコースターが動き始めてしまったときの写真です。

移動遊園地は今まで何もなかったところに突然現れます。移動できちゃうジェットコースターやアトラクションと聞くと安全面で少し不安になってしまい、真逆さまになるアトラクションは乗りませんでした。かなりのクオリティのものがたくさんあり、とても面白かったです。また日本ではあまり見られない珍しいものがあれば紹介していきたいです！